

国際会議計画趣意書

1. 国際会議の名称

英 文：2010 Asia-Pacific Radio Science Conference

和 文：2010年アジア・太平洋電波科学会議

略 称：AP-RASC'10

2. 国際会議の目的

電磁波伝搬・計測から環境電磁工学、エレクトロニクス、フォトニクス、地球、宇宙、天文、生体を含む広範な分野にわたる電波科学の研究領域において、アジア・太平洋地域を中心とした研究者が一堂に会して研究発表並びに情報交換を行う国際的な場を提供し、この地域における電波科学研究の一層の活性化と発展に資する（詳細は別紙1）。

3. 開催期間

2010年9月22日（水）～26日（日）

4. 開催場所

和文名称：富山国際会議場

英文名称：Toyama International Conference Center

和文所在地：〒930-0084 富山市大手町1番2号

英文所在地：1-2 Ohtemachi, Toyama 930-0084, Japan

Tel：076-424-5931、Fax：076-493-7170

URL：(和文) <http://www.ticc.co.jp/>

(英文) <http://www.ticc.co.jp/english/>

(参考) 富山県URL：(和文) <http://www.pref.toyama.jp/>

(英文) <http://www.pref.toyama.jp/english/>

5. 開催の規模

発表論文数（予定）：500編

参加者数（予定）：500人（国内：300人、外国：200人）

6. 開催形態

主 催：国際電波科学連合（International Union of Radio Science：URSI）、電子情報通信学会

協 賛：電気学会、電気・電子情報学術振興財団

後 援：日本学術会議、富山県、富山市、富山大学、富山県立大学

7. 運営組織

別紙2のとおり、大会委員長、International Advisory Board、International Steering Committee、組織委員会、実行委員会、論文委員会、事務局を組織している。

8. 国際会議の概要

(1) 会議の構成

開会式（オープニングセレモニー）、特別講演（2件）、オーラルセッション、ポスターセッション、SPC・YSA授賞式^(※1)、展示、懇親会（ウェルカムレセプション、SPCレセプション、バンケット、YSAレセプション）

(2) 会議のテーマ

- ・メインテーマ：「環境・エネルギーと電波科学」
- ・セッションテーマ：電磁波計測、電磁波、無線通信システム信号処理、エレクトロニクス・フォトリソグラフィ、電磁波の雑音・障害、非電離媒質伝搬・リモートセンシング、電離圏電波伝搬、プラズマ波動、電波天文学、医用生体電磁気学

(3) 会議の日程

	午 前	午 後	夜
9月22日（水）		参加登録受付開始、SPCセッション・審査	ウェルカムレセプション
9月23日（木）	開会式、オーラルセッション	オーラルセッション	SPCレセプション
9月24日（金）	特別講演 1、オーラルセッション	オーラルセッション	バンケット（SPC・YSA授賞式を実施） ^(※2)
9月25日（土）	特別講演 2、オーラルセッション	オーラルセッション、ポスターセッション	YSAレセプション
9月26日（日）	オーラルセッション	オーラルセッション	

9. 予算計画

別紙3の通り。

10. その他

本国際会議に関するホームページ：<http://www.ap-rasc10.jp>

(※1) AP-RASC'10 ではURSI 総会と同様、Student Paper Competition (SPC) を実施し、Young Scientist Award (YSA) の選定を行う。

(※2) バンケットは、「ANAクラウンプラザホテル富山」（〒930-0084 富山県富山市大手町2番3号）で開催する。
URL：(和文) <http://www.anacrownplaza-toyama.jp/>
(英文) <http://www.anacrownplaza-toyama.jp/honyaku/english/>

会議開催の目的・意義および開催に至る経緯

国際電波科学連合(International Union of Radio Science : URSI)は、電波科学の国際的な連絡とその発展を推進することを目的とした国際学術団体で、国際科学会議(International Council for Science : ICSU)に加入する 30 の Scientific Union (分野別国際学術団体) のひとつである。URSI は加入国の URSI 国内委員会によって構成されており、現在、39 カ国 1 地域がメンバー(Member Committee)として、2 カ国が準メンバー(Associate Member Committee)として URSI に加入している。わが国では日本学術会議が URSI に加入しており、日本学術会議 URSI 分科会が、わが国における URSI への公式対応組織である。日本学術会議と電子情報通信学会の共同主催により、第 24 回 URSI 総会(URSI General Assembly)が 1993 年に京都で開催され、その後、電子情報通信学会に URSI 日本国内委員会が設置された。日本学術会議 URSI 分科会は、電子情報通信学会 URSI 日本国内委員会と一体となって、電波科学研究の発展のための重要な活動を行っている。

URSI には、電波科学に関する幅広い学問分野をカバーする以下の 10 の Commission (分科会) が設置されている。

Commission A: Electromagnetic Metrology (電磁波計測)

Commission B: Fields and Waves, Electromagnetic Theory and Applications (電磁波)

Commission C: Radiocommunication Systems and Signal Processing (無線通信システム信号処理)

Commission D: Electronics and Photonics (エレクトロニクス・フォトニクス)

Commission E: Electromagnetic Environment and Interference (電磁波の雑音・障害)

Commission F: Wave Propagation and Remote Sensing (非電離媒質伝搬・リモートセンシング)

Commission G: Ionospheric Radio and Propagation (電離圏電波伝搬)

Commission H: Waves in Plasmas (プラズマ波動)

Commission J: Radio Astronomy (電波天文学)

Commission K: Electromagnetics in Biology and Medicine (医用生体電磁気学)

これらの Commission は、相互の緊密な連携の下に、電波科学の発展に資するため、広範にわたる活動を精力的に行っている。日本学術会議 URSI 分科会には、上述の 10 の Commission に対応して A、B、C、D、E、F、G、H、J、K の 10 の小委員会が設置されている。これら 10 の小委員会は、対応する URSI の Commission と連携しながら、各々の分野において重要な活動を行っている。

URSI の下でのわが国の電波科学研究分野の活動は活発である。1993 年に第 24 回 URSI 総会を京都で開催し、大成功を収めたことをはじめ、多くの URSI 本部役員がわが国から選出されている。1999 年にカナダ(トロント市)で開催された第 26 回 URSI 総会では、京都大学の松本紘総長が URSI の President に選任され、1999 年から 2002 年までの 3 年間、President を務めた。また、過去においては、Commission B、Commission C、Commission E、Commission F、Commission J、Commission K の Chair 及び Vice-Chair がわが国から選任され、URSI の活動に関し、重要な役割を担ってきた。更に、2008 年 8 月に米国(シカゴ市)で開催された第 29 回 URSI 総会では、Commission C、Commission H の Chair、及び Commission K の Vice-Chair が、わが国から選任された。以上のように、わが国は、世界の電波科学研究において中心的な役割を果たしている。

しかし、アジア地域では、URSI に加入する国・地域が日本、中国、台湾、インド、韓国に限られているため、URSI の活動は必ずしも活発とはいえない状況にある。これより、アジア地域における電波科学研究の活性化、並びにアジア諸国間の相互協力の実現に向け、わが国が主導的な立場をとること

が強く望まれている。また、アジア地域における学術研究については、太平洋地域との緊密な連携がますます重要視されていることから、アジア・太平洋地域を広く視野に入れた連携・協力の場が必要である。

「アジア・太平洋電波科学会議」(Asia-Pacific Radio Science Conference : AP-RASC) は、電波科学関連分野の研究者が一堂に会して研究発表と情報交換を行う国際学術研究集会であり、URSI の主催によって、アジア・太平洋地域で3年ごとに開催される。AP-RASC は、電波科学にかかる諸分野の連携を深め、かつアジア・太平洋地域における電波科学研究の一層の活性化と発展を図ることを企図し、日本学術会議電波科学研究連絡委員会(当時)がURSI 本部に提案し、実現したものである。URSI 本部の承認を経て、2001年8月に第1回のAP-RASC (AP-RASC' 01) が東京で開催され、大成功を収めた。第2回のAP-RASC (AP-RASC' 04) は、2004年8月に中国(チンタオ市)で開催された。第3回のAP-RASC (AP-RASC' 07) については、2007年にオーストラリア(パース市)で開催される予定で準備が進められていた。しかし、パース市のある西オーストラリア州の州政府組織が急変したことから、会議開催のための運営資金不足に陥り、急遽、AP-RASC' 07の開催が中止された。

AP-RASC はわが国がURSI 本部に提案して実現した国際会議であるため、今後、電波科学分野に関するわが国の最新の研究活動状況をアジア諸国に周知する意味でも、再び日本で開催すべきであるとの意見が、多くのURSI 関係者から出された。そこで、日本学術会議URSI 分科会で検討を重ねた結果、2010年9月にAP-RASC を日本で開催することとなった。AP-RASC' 10は第3回のAP-RASC である。AP-RASC' 10の日本開催については、日本学術会議URSI 分科会がURSI 本部に提案して承認され、URSI がAP-RASC' 10を全面的に支援することの了承が得られている。

AP-RASC のこれまでの開催状況は下表のとおりである。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者数
2001年(第1回)	東京(日本)	34	704	453
2004年(第2回)	チンタオ(中国)	(※1) 25	(※1) 450	(※1) 50
2010年(第3回)	富山(日本)	(※2) 30	(※2) 500	(※2) 300

(2007年にオーストラリアにて開催予定であった第3回AP-RASC は中止)

(※1) 概数

(※2) 予定数

2010 年アジア・太平洋電波科学会議の運営組織

1. 大会委員長

小林 一哉 中央大学理工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員長

2. International Advisory Board

Chair : Prof. H. Matsumoto Past President, URSI (Japan)

Vice Chair : Prof. F. Lefeuvre President, URSI (France)

Members :

Prof. J. Van Bladel	Honorary President, URSI (Belgium)
Prof. G. Brussaard	Past President, URSI (Netherlands)
Dr. Y. M. M. Antar	Vice-President, URSI (Canada)
Prof. M. Hallikainen	Vice-President, URSI (Finland)
Prof. U. Inan	Vice-President, URSI (USA)
Dr. P. J. Wilkinson	Vice-President, URSI (Australia)
Prof. P. Lagasse	Secretary-General, URSI (Belgium)
Prof. P. Van Daele	Assistant Secretary-General, URSI (Belgium)
Dr. W. R. Stone	Assistant Secretary-General (Publications), URSI (USA)
Dr. P. Banerjee	Chair, Commission A, URSI (India)
Prof. K. J. Langenberg	Chair, Commission B, URSI (Germany)
Prof. T. Ohira	Chair, Commission C, URSI (Japan)
Prof. F. Kaertner	Chair, Commission D, URSI (USA)
Prof. C. Christopoulos	Chair, Commission E, URSI (UK)
Dr. M. Chandra	Chair, Commission F, URSI (Germany)
Dr. M. Rietveld	Chair, Commission G, URSI (Norway)
Prof. Y. Omura	Chair, Commission H, URSI (Japan)
Prof. S. Ananthakrishnan	Chair, Commission J, URSI (India)
Prof. G. D'Inzeo	Chair, Commission K, URSI (Italy)

3. International Steering Committee

Chair : Prof. K. Kobayashi President, Japan National Committee of URSI

Members :

Mr. N. A. Dominguez	President, Argentina National Committee of URSI
Prof. A. J. Parfitt	President, Australia National Committee of URSI
Prof. S. J. Bauer	President, Austria National Committee of URSI
Prof. E. Schweicher	President, Belgium National Committee of URSI
Prof. P. Kaufmann	President, Brazil National Committee of URSI
Prof. N. Sabotinov	President, Bulgaria National Committee of URSI
Dr. F. Prato	President, Canada National Committee of URSI
Prof. J. May	President, Chile National Committee of URSI

Prof. Z. Sha	President, China (CIE) National Committee of URSI
Prof. L. C. Lee	President, China (SRS) National Committee of URSI
Prof. M. Mazanek	President, Czech Republic National Committee of URSI
Prof. P. Høeg	President, Denmark National Committee of URSI
Prof. I. A. M. Salem	President, Egypt National Committee of URSI
Prof. A. Sihvola	President, Finland National Committee of URSI
Prof. M. Bellanger	President, France National Committee of URSI
Dr. W. Mathis	President, Germany National Committee of URSI
Prof. J. N. Sahalos	President, Greece National Committee of URSI
Prof. L. Zombory	President, Hungary National Committee of URSI
Prof. S. Ananthakrishnan	President, India National Committee of URSI
Prof. T. Brazil	President, Ireland National Committee of URSI
Prof. E. Heyman	President, Israel National Committee of URSI
Prof. R. Sorrentino	President, Italy National Committee of URSI
Prof. T. Yamasaki	Secretary, Japan National Committee of URSI
Dr. A. Van Ardenne	President, Netherlands National Committee of URSI
Prof. N. R. Thomson	President, New Zealand National Committee of URSI
Prof. M. O. Ajewole	President, Nigeria National Committee of URSI
Prof. J. Trulsen	President, Norway National Committee of URSI
Dr. R. Woodman	President, Peru National Committee of URSI
Prof. S. Hahn	President, Poland National Committee of URSI
Eng. M. L. Mendes	President, Portugal National Committee of URSI
Dr. Yu. V. Gulyaev	President, Russia National Committee of URSI
Mr. F. S. Huraib	President, Saudi Arabia National Committee of URSI
Prof. L. Sumichrast	President, Slovakia National Committee of URSI
Prof. K. M. Reineck	President, South Africa National Committee of URSI
Prof. Y.-K. Cho	President, South Korea National Committee of URSI
Prof. J. L. Sebastian Franco	President, Spain National Committee of URSI
Prof. G. Kristensson	President, Sweden National Committee of URSI
Prof. A. Skrivervik	President, Switzerland National Committee of URSI
Prof. H. Serbest	President, Turkey National Committee of URSI
Prof. P. S. Cannon	President, UK National Committee of URSI
Prof. A. N. Pogorily	President, Ukraine National Committee of URSI
Dr. Y. Rahmat-Samii	President, USA National Committee of URSI

4. 組織委員会

委員長	松本 紘	京都大学総長、日本学術会議連携会員、日本学術会議第 18 期・第 19 期 電波科学研究連絡委員会委員長、日本学術会議第 20 期 URSI 分科会委員 長、URSI Past President
委員	赤池 正巳	東京理科大学工学部教授、URSI Commission C Past Chair

委員	安藤 真	東京工業大学理工学研究科教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員、 URSI Commission B Past Chair
委員	今井 秀樹	中央大学理工学部教授、日本学術会議第三部会員、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員
委員	上野 照剛	九州大学大学院工学研究院特任教授、東京大学名誉教授、 URSI Commission K Past Chair
委員	榎並 和雅	情報通信研究機構研究センター長、日本学術会議連携会員、日本学術会 議第 21 期 URSI 分科会委員
委員	河野 隆二	横浜国立大学工学部教授、日本学術会議連携会員、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員
委員	小林 一哉	中央大学理工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員長
委員	立居場光生	有明工業高等専門学校校長、日本学術会議連携会員、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員
委員	田中 正人	富山県立大学学長、東京大学名誉教授、日本学術会議連携会員
委員	長野 勇	金沢大学理事・副学長
委員	早川 正士	電気通信大学先端ワイヤレスコミュニケーション研究センター特任教 授、 URSI Commission E Past Chair
委員	古濱 洋治	元 宇宙航空研究開発機構理事、日本学術会議第 16 期・第 17 期電波科 学研究連絡委員会委員長、 URSI Commission F Past Chair
委員	吉田 進	京都大学情報学研究科教授、日本学術会議連携会員、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員

5. 実行委員会

委員長	小林 一哉	中央大学理工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 委員長
幹事	大村 善治	京都大学生存圏研究所教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分 科会委員、 URSI Commission H Chair
幹事	高田 潤一	東京工業大学大学院理工学研究科教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会副幹事
委員 (会場・催事担当)	岡田 敏美	富山県立大学工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科 会 H 小委員会委員長
委員 (論文担当)	佐藤 亨	京都大学大学院情報学研究科教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 B 小委員会委員長
委員 (財務・会計担当)	多氣 昌生	首都大学東京大学院理工学研究科教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会委員、 URSI Commission K Vice-Chair
委員 (出版担当)	八木谷 聡	金沢大学理工研究域教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科 会副幹事
委員 (総務担当)	山崎 恒樹	日本大学理工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 主幹事
委員	伊東 健治	金沢工業大学工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科

		会 C 小委員会委員長
委員	古賀 隆治	岡山大学大学院自然科学研究科（工学系）教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 E 小委員会委員長
委員	小林 秀行	自然科学研究機構国立天文台教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 J 小委員会委員長
委員	小山 泰弘	情報通信研究機構新世代ネットワーク研究センター光・時空標準グループグループリーダー、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 A 小委員会委員長
委員	重光 司	（財）電気安全環境研究所電磁界情報センターSenior Fellow、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 K 小委員会委員長
委員	永妻 忠夫	大阪大学大学院基礎工学研究科教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 D 小委員会委員長
委員	山口 芳雄	新潟大学工学部教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 F 小委員会委員長
委員	渡部 重十	北海道大学大学院理学研究院教授、日本学術会議第 21 期 URSI 分科会 G 小委員会委員長

6. 論文委員会

委員長	佐藤 亨	京都大学大学院情報学研究科教授
委員 (A 小委員会担当)	梶田 雅稔	情報通信研究機構新世代ネットワーク研究センター光・時空標準グループ主任研究員
委員 (B 小委員会担当)	白井 宏	中央大学理工学部教授
委員 (C 小委員会担当)	伊東 健治	金沢工業大学工学部教授
委員 (D 小委員会担当)	塚本 勝俊	大阪大学大学院工学研究科准教授
委員 (E 小委員会担当)	畠山 賢一	兵庫県立大学大学院工学研究科教授
委員 (F 小委員会担当)	小林 岳彦	東京電機大学工学部教授
委員 (G 小委員会担当)	渡部 重十	北海道大学大学院理学研究院教授
委員 (H 小委員会担当)	笠原 禎也	金沢大学総合メディア基盤センター教授
委員 (J 小委員会担当)	川口 則幸	自然科学研究機構国立天文台教授
委員 (K 小委員会担当)	大西 輝夫	NTT ドコモ先進技術研究所アンテナ・デバイス研究グループ主任研究員

7. 事務局

株式会社デュープラー（担当：代表取締役 久末 圭介）

〒271-0077 千葉県松戸市根本 3-1 サンアーチビル 3F

Tel : 047-361-6030、Fax : 047-308-5272

E-mail : secretariat@ap-rasc10.jp

8. 運営組織図



2010年アジア・太平洋電波科学会議の予算計画（金額単位：千円）

収 入	支 出
(参加登録費)	(事務局業務委託費)
・ 早期登録 (2010年5月31日～7月15日)	・ 事務局基本設置費 2,835千円
一般：42千円×280人 11,760千円	・ 経理業務 504千円
学生：20千円×100人 2,000千円	・ 会議登録関連業務 2,599千円
・ 事前登録 (2010年7月16日～9月3日)	・ 論文投稿関連業務 1,806千円
一般：47千円×80人 3,760千円	・ 制作・発送業務 315千円
学生：25千円×20人 500千円	・ その他業務・営業諸経費 210千円
・ 当日登録 (2010年9月22日～26日)	小計 8,269千円
一般：52千円×15人 780千円	(会議準備費)
学生：30千円×5人 150千円	・ ホームページ制作費 1,680千円
小計 18,950千円	・ Preliminary Announcement、Call for Papers
(助成金)	印刷費 300千円
・ 国際電波科学連合 (URSI) 2,000千円	・ チラシ、ポスター、入場券、プログラム、プ
・ 財団等 8,000千円	ロシーディングス制作・印刷費 1,300千円
小計 10,000千円	・ 参加者キット制作費 800千円
(寄付金)	・ 消耗品 241千円
・ 企業等 1,000千円	・ 通信費 500千円
小計 1,000千円	・ 旅費 400千円
(その他)	・ 人件費 360千円
・ 出展料 (展示)：100千円×3件 300千円	小計 5,581千円
小計 300千円	(会議運営費)
	・ 外国人招聘旅費 4,000千円
	・ 国内招聘旅費 500千円
	・ 学術賞 SPC 運営費 (5人) 1,500千円
	・ 学術賞 YSA 運営費 (20人) 2,300千円
	・ 会場費 3,500千円
	・ ウェルカムレセプション 2,000千円
	・ コーヒーブレイク 800千円
	・ 事務局スタッフ旅費 500千円
	・ 当日人件費 1,000千円
	・ 報告書制作・印刷費 200千円
	・ 通信費 100千円
	小計 16,400千円
計 30,250千円	計 30,250千円

(2009年11月10日)